

## 令和2年度 第2回岡崎市地域福祉計画推進委員会議事録

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催としました。

日 時 令和3年2月12日(金)( 書面回答期限 )

開催方法 書面開催

出席委員 長岩委員、大堀委員、神尾委員、前田委員、茂刈委員、加賀委員、  
木全委員、蜂須賀委員、鈴木委員、末崎委員、本田委員、加藤委員、檀委員

欠席委員 権委員、長坂委員、水野委員

### 1 議 事

- ( 1 ) 令和元年度岡崎市地域福祉計画事業検討部会の報告について
- ( 2 ) 第4次岡崎市地域福祉計画策定に向けた市民アンケート調査の結果について

### 2 送付資料

- ( 1 ) 資料1 令和元年度岡崎市地域福祉計画事業検討部会での取組及び会議内容について
- ( 2 ) 資料2 岡崎市地域福祉計画策定のための市民アンケート調査【調査結果報告書(案)】

### 3 議事に関する意見

#### ( 1 ) 資料1

- ・かねてから学校に着目した検討をしているが、そろそろこの課題については担当課から教育委員会にあげ、中間的な結論を出すべき時期にきているとも考えられる。その中で実現できるもの、壁が厚いもの等を精査していくような共同作業が必要。 (長岩委員)
- ・第2回の部会で整理されているような提案や要請をさらに具体的に成文化し、議論や交渉の場にあげていく必要があるかと思われる。部内での議論が一定成熟すれば、部内にスクールソーシャルワーカー、民生児童委員等を招き、具体的な内容や期待される効果、相互利益等についてより詰めた検討をするとよいのではないか。 (長岩委員)
- ・学校を組み込んだ地域福祉は、子どもの安全、管理上の問題等で実現しにくい部分もあるかと思われる。急いで教育委員会と折衝するのではなく、段階的な手続きを考えてもいいのかもしれない。 (長岩委員)
- ・空き家・空地の活用、農福連携、多文化共生は行政の担当部局が福祉部局でなかったり、他に問題意識を持ち、得意としている団体等があったりするため、協議・共同する課題だと思われる。 (長岩委員)
- ・学校での授業に地域の先生として参加する機会を増やしてほしい。そうすることで、地域の人材の顕在化ができ、有事の際に活用できるとと思われる。 (蜂須賀委員)

(2) 資料2

・働き盛りの年齢層にとって、自治会等はネガティブなイメージがあるように見受けられる。ここへの抵抗感がある市民がいることについては、改めて認識する必要がある。

(長岩委員)

・高齢者の移動手段の問題を訴える記述が散見される。改めて、広域の地域福祉、住民の生活課題、引いては行政の課題として受け止める必要があるのではないか。

(長岩委員)

・「地域住民が助け合う」という考え方が昔ながらの考え方で、今後のモデルとしては成り立たないとする意見もある。ラジカルな問題提起として考える必要があるのではないか。

(長岩委員)

・福祉への関心が前回より低くなっている。意外な結果であり、本当にそうであるのか疑問に感じる。

(木全委員)

・問27、28、30、33、35、36、38の認知度が低いことに驚いた。福祉サービスの種類・諸制度・組織の活動状況など、情報発信がさらに必要と感じた。

(木全委員)

・市民アンケート調査・自由意見( )を読んでみると、地域福祉への強い期待のほどが伺える。また、去る9/26に長岩先生が講演された地域福祉講座で大変貴重なご意見をいただいた。これらの意見を「第4次地域福祉計画」へ反映してもらいたい。

(檀委員)

・新型コロナウイルスの流行により、地域の福祉活動は大変難しい状況にある。その打開策として、地域福祉活動にオンライン化(ZOOM等)を取り入れ、活動の幅を広げることが提案したい。細川学区福祉委員会は実際にオンライン化への取り組みを行っている。

(檀委員)

・福祉に関わりがない方が多いのは残念。特にボランティア活動をしている人が少ないため努力しないといけない。

(蜂須賀委員)

・社会福祉協議会や福祉サービスの入手方法があまり知られていないのでPRの強化が必要だと思う。有効活用されていないのはもったいない。

(蜂須賀委員)

・災害時避難行動要支援者支援制度の認知度が低いのに驚きである。PRをし、巨大地震や台風などの時に困る方がいないようにしてほしい。

(蜂須賀委員)

第3回岡崎市地域福祉計画推進委員会にて本会議の報告を行うこととした。

9名の委員から意見なしのご回答をいただきました。